

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・コミュニティの創造に係る内容</li> <li>・コミュニティ・スクールの運営に係る内容</li> <li>・地域との効果的な連携に係る内容(関係機関との連携、教育ボランティア等)</li> </ul>
取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「学校3部制」の第2部の教室開放や部活動の地域移行について進める。【4】</li> <li>②コミュニティ・スクール委員会や教職員、保護者などの熟議を通して、「連雀学びのスタンダード」の改訂を進める。【14】</li> <li>③年度当初に連雀ジョイナスの活動計画を立て実践する。【4】【11】</li> <li>④CS委員会発行の学園ニュース「ジョイナス」を計画的に発行する。【15】</li> </ul>

成果

○3部制への取組みは、各校進んでおり、施設利用を一定程度開始することができている。  
 ○CS委員会での熟議を通して、子どもたちに育てたい力を話し合い、必要な取組みを具体的に考えることができた。  
 ○学園ニュース「ジョイナス」の計画的な発行と連雀文化祭「笑顔満祭」の実施を実現することができた。

課題	改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設利用する人数が適正となるよう、支援員を確保する。新たなプログラムの開発も視野に入れていく。</li> <li>●子どもたちに育てたい力は継続して、話し合っていく。連雀文化祭は、継続するための課題と対応を明らかにしていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎それぞれの施設のニーズと、それに見合う支援員数やプログラム等を明確にするようにして、運営及び評価・改善をしていく。</li> <li>◎CS委員会で大切にしてきた熟議の継続やおとな熟議の実施により、学園の教育実践の改善を図る。文化祭等の取組みについては、早期に計画・実施できるようにする。</li> </ul>

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容(学園研究等)</li> <li>・小学校間での授業交流</li> <li>・乗り入れ授業</li> <li>・児童・生徒の交流活動</li> </ul>
取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>①交流活動の改善【5】</li> <li>②学園研究の充実【1】</li> <li>③児童会・生徒会活動によるリーダーシップの育成【6】</li> </ul>

成果

○学園の交流活動を予定通りに実施し、児童・生徒に満足感や学園への所属感を実感させることができた。  
 ○学園研究は、連雀学園一貫カリキュラムに則り、学園研究テーマの実現へ向けて、計画どおり実施することができた。  
 ○乗り入れ授業は、ほぼ予定通り実施することができている。

課題	改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>●交流行事の内容については、4校の状況に応じて、常に見直しを図っていく。また、小小の交流も計画的に実施していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎今年度実施する母校訪問形式のたてわり活動や小小の交流行事について、計画的に実施できるよう、推進委員会で早めの提案をしていくようにする。</li> </ul>

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進</li> <li>・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上</li> <li>・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの推進</li> <li>・GIGAスクール構想</li> <li>・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等</li> </ul>	
取組	①学園研究の充実【1】②基幹学力の定着・向上【2】	
<b>成果</b>		
<p>○学園の研究テーマ「知的コミュニケーションを活かした学習指導の工夫」に向けて、4校各々が授業改善に向けた取組みを推進できた。ICT機器の活用や「考える授業」の実現の視点からも、一定の成果が見られた。</p> <p>○算数習熟度別指導や「地域未来塾」など、基幹学力の定着・向上を目指した取組みも、計画的に実施できた。</p>		
	<b>課題</b>	<b>改善策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●到達目標に達していない児童・生徒や学力調査等に肯定的でない児童・生徒への理解と指導の充実を継続して行っていく</li> <li>●ICT機器の活用については、ほぼできてはいるが、積極性については、まだ個人差が見られる部分もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎全国学力学習状況調査や市の学力テストを活用して、全体の傾向と個々の様子を把握し、引き続き授業改善に努める。</li> <li>◎ICT機器の活用の好事例を、学園研究や各校の研究・研修のなかで共有し、積極性を高めていく。</li> </ul>

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え議論する道徳</li> <li>・いじめの早期発見・早期解決</li> <li>・デジタル・シティズンシップ教育</li> <li>・情報モラル教育</li> <li>・生活指導等</li> </ul>	
取組	①実践力につながるあいさつ運動【7】 ②・温かい人間関係の醸成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実</li> <li>・自己肯定感、自己有用感の向上</li> <li>・オリンピック、パラリンピック教育レガシーの推進【12】</li> </ul>	
<b>成果</b>		
<p>○学園共通でHyper-QUを導入して学級づくりに活かし、よりよい人間関係づくりを進めることができた。</p> <p>○小学校各校通常の学級における児童への支援策について検討し、個に応じた授業展開を実施している。</p>		
	<b>課題</b>	<b>改善策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Hyper-QUの導入により、児童・生徒の状況の把握はできたが、学級集団作りや人間関係づくりに生かしていく工夫については、今後も各校で推進したり、学園で共有したりする必要がある。</li> <li>●通級拠点校との連携により、引き続き支援策の検討や個に応じた授業展開に取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎学園生活指導部や研究全体会での研修、学園研究での実践の共有を深めていく。</li> <li>◎学園(小学校)合同でのプラン研修等、実践につながる研修の実施。</li> </ul>

検証項目	5 (体) 健康・体力
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・体力向上、健康にかかわる内容(食育)等</li> </ul>
取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>①連雀学びのスタンダードの改訂【4】【14】</li> <li>②体力向上、健康教育への取組【13】</li> <li>③安全に関する正しい知識と高い意識【10】</li> </ul>

**成果**

○体力調査の結果からは、三鷹市の平均をほぼ上回り、改善が見られた。授業改善の成果が見られている。また、体を動かしたり、運動したりすることが好きな児童・生徒の数も一定数見られる。  
 ○調査への回答から、児童・生徒が健康な生活や体力づくりに対しての意識をもっていることも確認できた。

課題	改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童・生徒の運動に対する意欲や関心をさらに高めたり、実際に運動する機会を増やしたりする。</li> <li>●健康な生活と体力向上への意識を家庭と連携して高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎学園合同あるいは連携した運動の強化週間や意識付けを高める取り組みを再開していく。</li> <li>◎体力調査の結果を活かした授業改善の継続と、家庭への周知の方法の工夫をしていく。</li> </ul>

検証項目	6 特色ある教育活動(その他)
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色あるキャリアアントレプレナーシップ教育</li> <li>・デジタル・シティズンシップ教育</li> <li>・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成(伝統や文化に関する教育、主権者に関する教育、法に関する教育など)</li> </ul>
取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>①キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進【8】</li> <li>②子ども熟議による企画【9】</li> </ul>

**成果**

○キャリア・アントレプレナーシップ教育は、各校の特色を生かして展開することができた。  
 ○児童会・生徒会活動の充実や熟議との連携、学校での意見集約など、児童・生徒の意見を活かした取組みが、各校で推進された。児童・生徒の満足度も高かった。デジタル・シティズンシップ教育を反映させ、連雀学園でのタブレットルールの見直しも始められている。

課題	改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童・生徒の意見を活かした児童・生徒会の活動を継続していく。また、児童・生徒会に属さない児童・生徒の意欲の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎各校での意見集約を引き続き行うこと、児童・生徒会での意見交換や学園での情報共有と、連携を強化する。また、CS委員会など、地域諸団体の主催する活動への参加を促す。</li> </ul>

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退校目標時間、ノー残業デー等の設定</li> <li>・教員のタイムマネジメント力の向上</li> <li>・人財の効果的活用</li> <li>・地域行事等への参加の工夫等</li> <li>・部活動の適正化</li> </ul>
取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「三鷹市立学校における働き方改革プラン」を踏まえ、SC推進員、校内の専門スタッフや校務支援システムの活用、効率的な会議運営などにより、組織的な課題解決力の充実を図り、校務改善を進める。</li> </ul>

成果

- 退校目標時間、ノー残業デーの設定等、各校実施し、超過勤務時間の減少に努め、一定の成果を見ることはできている。
- 専門スタッフの配置とその活用、校務支援システムの活用が、「当たり前」になり、効率的な会議運営につながっている。

課題	改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>●在校時間や超過勤務の時間には、ばらつきがある。時季による増減があったり、個々のもつ業務の内容に左右されたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎校務の均等化を図るとともに、繁忙期を見据えて業務の先取りをするなど、タイムマネジメントを意識した働き方に改善させ、児童・生徒と向き合う時間を確保するようにしていく。</li> </ul>

令和5年度 連雀学園の評価・検証結果のまとめ

上記1から7の検証結果を踏まえて

① 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと	
<p>① 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○CS委員会での毎回の熟議を通して、連雀学園の子どもたちの実態と育てたい力を話し合い、必要な取組みを具体的に考えることができた。そして、連雀文化祭「笑顔満祭」の実施を実現し、連雀学園の子どもたちに育てたい力の実現に向けた取組みとすることができた。</li> <li>○小・中一貫カリキュラムに則り、連雀学園各校で、学園研究を計画どおり実施するとともに、授業改善へ向けての取組みを推進することができた。</li> <li>○学校3部制への取組みを各校で進め、施設利用を開始することができた。</li> </ul>	
② 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること(重点課題)	③ 「②」の重点課題を解決するための改善策
<p>② 重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●連雀学園の子どもたちに育てたい力を、学園、保護者、学校で共有し、教職員の当事者意識を高めるとともに、CS委員や地域、家庭と協働する。</li> </ul>	<p>③ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎連雀学園構成メンバーによる熟議を行い、学園・学校の教育実践を振り返り、目標や取り組みなどの重点化を探り、新たな指針を作成する。</li> </ul>